

科目名		チーム医療論	教員名	小林 聖美 他	学科等	理学療法	必修	履修年次	3
(科目番号)		(時間割参照)			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
					授業形態	演習	オフィスアワー	火6・A316研究室(小林)	
授業概要		地域リハビリテーションを行うにあたり、係わることが不可欠な多職種について学ぶ。多職種の専門性や具体的な業務内容を理解し、その上で患者様により良いサービスを提供する為に、どの様に職種間連携を図ることが望ましいのか考察を深める。患者様の生活を知り、その患者様を取り巻く多職種がどのようなアプローチを行うかを学び、自らが関わる場合にはどのようにアプローチを行うのか考える。							
目的・目標		目的:多職種で連携を図る意義を理解し、多職種と協働するための基礎的な能力を身につける。 目標:多職種の役割を理解し、グループワークを通して自身が目指す職種の役割を説明できる。							
準備学習		毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容						
	1	チーム医療の概念 各種専門職の理解 医師	学習内容:チーム医療の基本的な考え方を学び、専門職の役割について学習する。 到達目標:医療技術の進歩、疾病構造の変化や人々の健康意識の変化、各種専門職連携の意義、患者中心における医師の役割について説明できる。						
	2	各種専門職の理解 看護師・保健師・理学療法士	学習内容:チーム医療の基本的な考え方を学び、専門職の役割について学習する。 到達目標:医療技術の進歩、疾病構造の変化や人々の健康意識の変化、各種専門職連携の意義、患者中心における看護師の役割、保健師の役割、理学療法士の役割について説明できる。						
	3	各種専門職の理解 診療放射線技師・臨床検査技師 臨床工学技士	学習内容:チーム医療の基本的な考え方を学び、専門職の役割について学習する。 到達目標:医療技術の進歩、疾病構造の変化や人々の健康意識の変化、各種専門職連携の意義、患者中心における診療放射線技師の役割、臨床検査技師の役割の役割、臨床工学技士の役割について説明できる。						
	4	各種専門職の理解 管理栄養士・ソーシャルワーカー 薬剤師	学習内容:チーム医療の基本的な考え方を学び、専門職の役割について学習する。 到達目標:医療技術の進歩、疾病構造の変化や人々の健康意識の変化、各種専門職連携の意義、患者中心における管理栄養士の役割、ソーシャルワーカーの役割、薬剤師の役割について説明できる。						
	5	【演習1】 課題に対するグループワーク	学習内容:事例に対する専門職の役割について学習する。 到達目標:チーム医療の視点から、事例に対して各専門職の役割を考え説明できる。						
	6	【演習2】 課題に対するグループワーク	学習内容:事例に対する専門職の役割について学習する。 到達目標:チーム医療の視点から、事例に対して各専門職の役割を考え説明できる。						
	7	【演習3】 課題に対するグループワーク	学習内容:事例に対する専門職の役割について学習する。 到達目標:チーム医療の視点から、事例に対して各専門職の役割を考え説明できる。						
	8	グループ発表1 (1-40グループ)	学習内容:事例を通してグループでまとめた専門職の役割について学習する。 到達目標:グループでまとめた専門職の役割について発表することができる。						
	9	専門職理解 言語聴覚士	学習内容:チーム医療の基本的な考え方を学び、専門職の役割について学習する。 到達目標:医療技術の進歩、疾病構造の変化や人々の健康意識の変化、各種専門職連携の意義、患者中心における言語聴覚士の役割について説明できる。						
	10	専門職理解 作業療法士	学習内容:チーム医療の基本的な考え方を学び、専門職の役割について学習する。 到達目標:医療技術の進歩、疾病構造の変化や人々の健康意識の変化、各種専門職連携の意義、患者中心における作業療法士の役割について説明できる。						
	11	疾患概要(ALS)	到達目標:筋萎縮性側索硬化症の疾患概要と障害について理解する。 学習内容:筋萎縮性側索硬化症の概要について学習する。						
	12	対象者の支援	到達目標:対象者の生活支援について、自身の考えを述べることができる。 学習内容:対象者の在宅生活をどのように支援するか、多職種の関わりを含めて考える。						
	13	対象者の理解	到達目標:生活改善のために必要な多職種での支援について考えることができる。 学習内容:筋萎縮性側索硬化症患者の生活について学習する。(外部講師・当事者)						
	14	グループワーク1	到達目標:対象者の生活支援について、グループで意見を発表することができる。 学習内容:対象者の在宅生活をどのように支援するか、他学科の学生と意見交換を行う。						
15	グループワーク2	到達目標:対象者の生活支援について、グループで意見を発表することができる。 学習内容:対象者の在宅生活をどのように支援するか、他学科の学生と意見交換を行う。							
成績評価の方法・基準		演習1～3で作成した発表資料・発表（40％）＋レポート（20％）＋グループワークで作成した資料・発表（40％） （対面・オンライン共通）							
教科書									
参考図書									
教員からのメッセージ		レポートはコメントを付して授業内で返却します。発表前個人課題、発表資料、発表内容については、評価基準を周知し、それに沿って評価を行います。第12～15回は他学科学生との合同で授業を予定しているため、授業時間の変更があります。在宅で難病患者支援に関わった理学療法士がこの授業を担当します。オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知します。							